

2008年(平成20年)6月4日(水曜日)

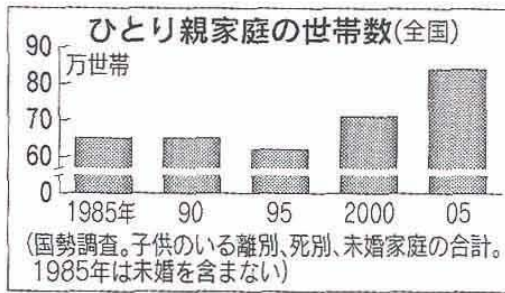
病気の子保育低額で

特定非営利活動法人(NPO法人)のフローレンス(東京・中央、駒崎弘樹代表理事)は七月から、東京都内でひとり親の家庭を対象にした低料金の病児保育サービスを始める。企業の寄付を原資に通常は五千―二万円の月会費を千五十円にする。まずゴールドマン・サックス証券の寄付をもとに定員二十人を四日から募集する。順次、協力企業を増やしていく。

企業の寄付原資、来月から

フローレンスは江戸川、港、杉並など都内十三区で派遣型の病児保育サービスを手掛ける。子供が熱を出したりした場合、前日までに電子メールを入れるか、当日の朝に電話で依頼すると、利用者の自宅やスタッフの

働くひとり親 支援



都内NPO フローレンス

家で面倒をみる。スタッフは預かった子供を、会社ごとに決めておいたかかりつけ医にみせる。通常はそれまでの利用回数や細かなメニュー選択によって月会費が変わる。新サービスは所得が少ないひとり親家庭が利用しやすいよう定額にする。期間は二年まで。子供を預ける際の費用は共通で、毎月の初回が無料となり、二回目以降は一時間あたり千五十円かかる。

業ごとに定員、期間を定める。今後、ゴールドマン・サックス証券以外にも寄付を募り、新たなサービス枠を設ける。枠ごとに企業名を冠して利用者を募る。子供が病気になった場合の保育は働く親にとって大きな問題。一般の保育施設には預けられないため、急に休む可能性がある人材の雇用を敬遠する企業が少なくない。ひとり親家庭にとっては特に深刻な問題となっている。

ひとり親家庭の数は離婚の増加などを背景に膨らんでいる。国勢調査によると二〇〇五年は全国で八十四万世帯と、二〇〇〇年調査を二割近く上回った。厚生労働省が調べた母子世帯の年間収入は〇五年で平均二百十三万円にとどまっている。

都開人

とかいびと

域に拡大し、六百四十世帯が利用する。

「子どもが病気になる時、働く女性は仕事をどうするの。保育園は預かってくれる、仕事を休まざるをえないことが多い。きっかけはベビーシッターをしている母の一言。子どもが熱を出して会社を休んだ

▼風邪や発熱など軽い病気の子どもを預かる「病児保育」を手がける特定非営利活動法人（NPO法人）、フローレンスの代表理事。

二〇〇五年に江東区などでサービスを開始。今では東京二十三区全

病児保育 働く女性を手助け



NPO法人フローレンス代表理事

駒崎 弘樹さん(29)

ら解雇された女性がいる。こうした現状を何とかできないかと考えた。

▼慶応大在学中に仲間と学生インターンチャートを立ち上げたが、自分は何のために働いて

いるのか」と疑問を感じて共同経営者に譲った。〇三年の大学卒業とともに任意団体を設立。近代看護教育に貢献したフローレンス・ナイチンゲールから命は依頼の数が異なるが、あ

「日本にはNPOの創業を支援する制度がない。資金の工面のため、企画書を書きまくり各種財団を回ったが、大半は断られた。当初は商店街の空き店舗に保育施設を造ろうと考えたが、行政の理解が得られず断念するしかなかった」

「くじけそうになった末にたどり着いた手法が施設を持たないことと会員制だった。これなら少ない資金でも経営を安定させること

東京

仕事と生活、見直す好機

らかじめ会費をもらえば収入が安定する」

▼朝八時までに連絡すると九十分以内に保育スタッフが利用者の自宅に来て、病児の子どもの面倒を見る。会費は子どもの年齢などで異なるが、おおむね月八千円前後。このなかに月一回分の利用料金が含まれている。二回目を以降の料金は、一回目以降の料金は一時間二千円になる。

「最近、力を入れているのが、ひとり親の支援。ひたすら業務を進めるチャンス。企業はとり親の平均世帯収入は一時間かかっていたものが、一般家庭の約三分の一。企業や個人から寄付を募り、月八時間で済むようになる。千五百円の会費で、病児保育サービスを受けられるようにしている。月千円寄付してくれる人を八人集めれば、一人を助けることができる」

▼当初は外資系金融機関などの寄付に期待したが、昨年の米国発の金融危機で軌道修正。昨年十二月から個人を中心に集めている。現在、四十人のひとり親が利用する。

「景気悪化で企業は子育て支援の余裕がなくなっている。だが、こういう時期だからこそワークライフバランス（仕事と生活の調和）を進めるチャンス。企業は業務を見直し、むだな業務を減らす。この結果、十二時間かかっていたものが、八時間で済むようになる。中長期的には労働力人口は減少し、女性の活用は不可欠